

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第17号

2010年7月



- 新築移転20周年 記念祝賀会 開催に当たって
- 新築移転20周年のご挨拶
- 病院機能評価認定
- 人間ドック健診施設機能評価を受審して
- 第12回日本医療マネジメント学会を終えて
- 医療の現場から① ②
- 皮膚・排泄ケア認定看護師って？何する人？
- 感染管理認定看護師って何者？
- 緩和ケア認定看護師
- 第19回YOSAKOIソーラン大賞受賞!!
- こんにちは、医療連携室です No.14

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。



新築移転20周年 記念祝賀会 開催に当たって

院長 秦 温 信

移転20周年記念祝賀会を開催することができましたのも、これまでの多くの方々のご支援によるものと深く感謝いたしております。

当院の創立は、今から117年前の明治26年（1893）開場不二彦先生が「関場医院」として開設されたのに始まり、翌年「北海病院」と改称され、さ



らに明治31年「北辰病院」と改称されておりますが、民営で官立に対抗できる全道一の病院をつくろうと考えたとされてい



ます。昭和22年2月に国に移管されて「北海道健康保険北辰病院」となり、さらに平成2年6月に現在地に新築移転し、「札幌社会保険総合病院」と改称されましたが、この厚別区に移転してから20周年を迎えたわけです。

これまで、平成8年4月に開設された「地域医療室」（現 医療連携・相談室）

を通じて周辺地域の医療機関との連携を密にしていり、平成18年10月には道央圏唯一の「地域医療支援病院」として承認されておりますが、このような病院としての機能をさらに推し進めて行く所存です。



折しも、今まさに社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院が一体となって運営される独立行政法人「地域医療機能推進機構」の法案が国会

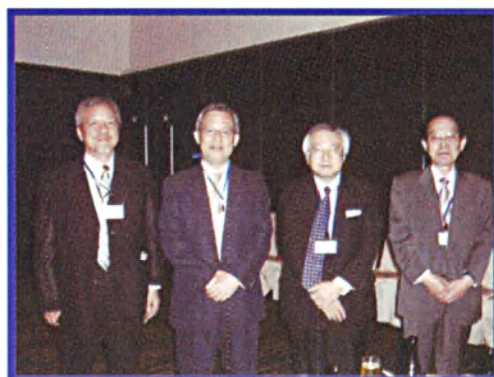


で審議中であり、今後はこれら病院群として新たな展開とともにさらに大きな発展が期待されております。今後の方向として、私ども職員が使命としてきた、「地域の医療機関や行政と協力して厚別区および周辺地域の住

民の健康を守るための緊密に連携する医療圏を形成するとともに、地域の医療・保健・福祉に貢献すること」がさらに強化されることになります。



あまりに激しい医療制度改革の変化の中ではありますが、新築移転20周年を機に、院是にも掲げている「全人的医療」を目指してさらに努力してまいりたいと思っておりますので、これまでにましての皆様のご支援をお願いいたします。





新築移転20周年のご挨拶

名誉院長 佐野 文 男

新築移転20周年、おめでとうございます。

私は平成4年1月1日に赴任し、平成16年3月31日までの12年3ヶ月の間お世話になりました。

私が赴任した当時は病院全体がまだ新しく、電算化されたカルテなどの収納・検索機構が最先端の病院装備であり、他の医療機関からの見学や視察の申し込みが数多く見られました。既に20年を経た現在は地域の唯一の公的医療機関としての役割を果たしつつ、さらに、明日への保健、医療、福祉の充実に向かって、職員一丸となって努力しているところであります。

さて、今までにこんなことがありました。

平成8年1月9日(火)、札幌市周辺を大雪が襲いました。豪雪猛吹雪でバスも市電もJRも完全にストップし、地下鉄のみが生きた交通機関となりました。猛吹雪の中をいつもより1時間以上も前に家を出て、歩いて最寄りの地下鉄駅までたどり着き、地下鉄に乗って通常の出勤時間通りに病院に着いた職員が大勢いました。猛吹雪の中を雪まみれになりながら、病院玄関から入ってくる職員の姿は感動的でありました。やむを得ない事情の人は別として、当院職員の80%以上の方が時間通りに出勤し、診療には全く支障を来さなかったことは、医療従事者として大変誇らしく思われました。通常は1000名を超える外来患者数が、当日は440名(新患72名、再患368名)で、当院開設以来、平日では最も少ない患者数でしたが、その重要性は最も高いものでありました。忘れることの出来ない大きな思い出となっております。

また、忘れられない出来事を思い起こすと、2000年1月1日付けで全国に先駆けて病院内・敷地内全面禁煙を実施、これは今や病院機能評価の重要な評価項目となっております。さらに院是の制定、病院機能評価の認定、臨床研修指定病院の認定、地域医療連携室の開設、医療リスクマネジメント、クリティカル・パス、医療情報開示、院外処方、1患者1カルテ、地域医療支援病院の承認、全国学会の主宰など、枚挙にいとまがありません。

病院移転後も様々な風雪を経験しながら、病院のモットーである三志(誠実・博愛・協和)を貫き、高邁な理想と精神によって医療を展開してこられたのは、医師会をはじめ当院と関係のある諸団体や、多くの方々のご指導ご鞭撻や、職員の互助会として昭和29年に発足し、その後三志会と呼称されている会の大きな後ろ盾があつてのことであり、感慨深いものがあります。

歴史的な行事として新築移転20周年を記念して平成22年6月2日にサクランボ(佐藤錦)の植樹が行われました。

因みに新築移転5周年記念(平成7年6月9日)には、「八重桜」、「えぞやま桜」、「ライラック」(写真)が、10周年記念(平成12年9月25日)には、「そめいよしの桜」、「八重桜」、「恵山つつじ」(写真)が植樹され、それぞれの花が今年も見事に咲き競っております。病院の隆盛を見る思いが致します。

終わりに、札幌社会保険総合病院の今後一層のご発展と皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、挨拶といたします。



病院機能評価認定

副院長 吉田 純一



札幌社会保険総合病院は、本年1月に財団法人日本医療評価機構の訪問審査を受け、6月に無事認定証をいただきました。

- 認定第GB176-3号 審査体制区分3 (ver,6,)
- 認定期間：2010年6月19日～2015年6月18日
- 発効日2010年6月4日



当院では2000年に最初の認定を受けており、今回で2回目の更新です。医療機能評価の考え方はアメリカ発祥で、医療サービスの安全性と質の改善、それらを提供する病院機能の標準化を主な目的として始められました。その日本版として医療評価機構による認定が1995年から始まっています。病院が整えるべき標準的機能を示すものと考えられていますが、当然年々改定されており、またさまざまな意見もあるのは事実です。しかし、病院の機能をきちんと整えなければ安全安定した医療サービスの提供が出来ないことは、我々も日頃実感しておりこの審査受審も含め常に努力を続けています。

今回でも良好な評価の中にも厳しい指摘があり、札幌社会保険総合病院が皆様に信頼される病院であり続けるための道しるべとして、役立てて行きたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

人間ドック健診施設機能評価を受審して

平成22年2月22日、社団法人人間ドック学会による人間ドック健診施設機能評価を受審いたしました。今回は更新審査ということもあり前回指摘を受けた事項を年度当初より計画をたて見直しをしてきたつもりではありますが…私自身が1月18日より2月20日まで研修の為不在となり直前の準備に何の役にも立たなかったという健診スタッフの皆様には申し訳ない状況でした。にもかかわらず、暖かく研修に送り出していただき、山下参与（当時次長）の陣頭指揮のもと書類の準備及び環境整備にご尽力いただき感謝いたします。

当日は、かの有名な日野原先生のご子息がサーベイヤーとして来院され、研修で麻痺した頭の私は直接お話を聞ける機会のほうがうれしく思っていました。しかし、施設内のラウンド及び書類審査が進むにつれ非常に厳しい指摘が多く、「落とす評価ではないので、更新ができる体制を早急に確立してください」とのお言葉に、更新できないのではないかと不安さもありました。

しかし、結果は無事更新認定されました。評価コメントには併設病院とは切り離して経営的視点から独自の中長期目標や計画の立案・環境整備・職員の人材育成など厳しい指摘もありましたが、健診の精度管理及び保健指導・フォローアップ体制はお褒めのお言葉いただきホッとしているところです。



平成22年度は新しくセンター長をお迎えし、指摘された事項の改善に早速取り組み何か新しい空気を感じつつあります。今年度は健診システムの更新なども控え、ますます生まれ変わらなければと気持ちを新たにしているところです。

最後になりましたが、日ごろよりご協力いただいております各診療科の先生及び関係部門の皆様本当にありがとうございます。皆様のおかげで無事更新認定をいただけたことに感謝いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

第12回日本医療マネジメント学会を終えて

去る6月11日12日の2日間、札幌コンベンションセンターを中心に第12回日本医療マネジメント学会が、札幌社会保険総合病院院長秦温信会長の下開催されました。この学会は病



院運営における総ての分野にかかわるので、総ての職種の方が参加するととても大きな学会です。今回も事前登録で2,000人以上、当日受付と合わせると3,000人を超える方々が参加されました。

2日間熱心な討論が展開され、中日にはジギスカンとよさこいソーランのアトラクションで札幌を堪能していただきました。準備はいろいろ大変でしたが、幸い大過なく終わることが出来ま



したし、参加者からはねぎらいの言葉をいただくこともできとてもほっとしています。私たちは準備で得た経験と学会での勉強で得た知識とを、これからの仕事にきちんと生かして行きたいと思っています。



医療の現場から①

石綿(せきめん・いしわた・アスベスト)による健康被害

呼吸器科 相坂 治彦



石綿は、天然の繊維性珪酸塩鉱物の総称で、断熱性、耐火性、絶縁性、耐酸性、耐アルカリ性、吸音・吸着性に優れ、軽く綿状の性質であるため様々な形の建築資材や工業製品に加工されていました。

発癌性の高い物質であったため、造船、自動車修理、内装建設業等では職業性曝露が重大な問題となり、更に石綿を取り扱った工場周辺の環境被害も問題となったため、現在では法律で使用禁止になっています。

平成17年6月に兵庫県尼崎市の石綿含有製品製造会社の従業員・家族79名が亡くなれたと報道されて以来、一躍脚光をあびた石綿による健康被害でしたが、最近ではマスコミに取り上げられる機会も少なくなりました。しかし石綿による健康被害は一時的なブームではなく、現在も、そしてこれから未来にむけても更に拡大していくことが予測されています。

石綿吸入曝露によって引き起こされる健康障害として悪性中皮腫や肺癌の悪性疾患、塵肺のひとつである石綿肺、良性疾患である胸膜肥厚斑、良性石綿胸水(胸膜炎)及びびまん性胸膜肥厚があげられます。

マスコミにも取り上げられ、一時話題になった悪性中皮腫とは、胸膜や腹膜等の薄い膜に発生した悪性疾患で、「膜の癌」と考えられます。肺癌と比べて発症頻度は大変低いですが、年々発症者は増加傾向にあると言われています。症状としては胸水、腹水の貯留による息切れ、呼吸困難、胸痛、腹痛、腹部膨満感が出現します。

この疾患の問題点としては、最初の石綿吸入からおおむね40年前後の潜伏期をへてから健康障害がおきること、早期発見が難しいこと、治療として外科治療、抗癌剤治療、放射線治療が行われておりますが現在のところ有効な治療法がないことが挙げられます。

以前及び現在石綿を取り扱う職業であった方々には、早期発見のため一年に最低一回の胸部レントゲン、できれば胸部CTによる健康診断が推奨されています。

ネフローゼ症候群について

腎臓内科 山田 幹 二



ネフローゼ症候群とは、多量の尿たんぱくの為に低蛋白血症になった病態をさします。具体的には診断基準として①1日の蛋白尿が3.5g以上で持続する②血清総蛋白が6.0g/dl以下、あるいは血清アルブミンが3.0g/dl以下で持続する、の①②を満たす場合をさします。高コレステロール血症（総コレステロールが250mg/dl以上）あるいは浮腫の存在などは診断基準ではありませんが参考項目としてあげられます。

ネフローゼ症候群を起こす原因にはさまざまなものがありますが、腎臓そのものに腎炎が起きてしまいネフローゼ症候群を来す場合を〔1〕原発性（一次性）ネフローゼ症候群といい、内訳として微小変化型ネフローゼ症候群、巣状系球体硬化症、膜性腎症、膜性増殖性系球体腎炎、メサングウム増殖性系球体腎炎など色々な原因疾患があります。これらは腎生検という、腎臓に検査針を刺して組織を採取する検査を行い、顕微鏡により組織診断の分類がなされます。

一方で〔2〕続発性（二次性）ネフローゼ症候群という腎臓以外の影響を受ける場合もあります。全身疾患に伴うものでは全身性ループスエリテマトーデス、糖尿病、アミロイドーシスなどがあり、感染症に伴うものとしては細菌感染やウイルス感染などがあります。腫瘍性疾患では悪性腫瘍やリンパ腫などに伴う場合があります。薬剤では金製剤やその他の抗リウマチ薬、ペニシラミン、消炎鎮痛剤などの服用後に発症する場合があります。遺伝性疾患ではアルポート症候群、先天性ネフローゼ症候群などがあります。その他アレルギー反応に伴う場合や妊娠中毒症、悪性高血圧などの関連する場合もあります。さまざまな疾患にまたがるネフローゼ症候群ですが、いずれにせよきちんとした診断、治療が必要となります。

治療が遅れると腎機能が低下して透析になる場合もあり、また浮腫が悪化して肺にも水が溜まり呼吸困難になり命にかかわるケースもあります。検診のひっきりかや症状としてのむくみがある場合は早めに腎臓の専門外来の受診をした方がよいと言えます。

皮膚・排泄ケア認定 看護師って？何する人？

皮膚排泄ケア認定看護師 神下 美雪



皮膚・排泄ケア認定看護師は、人工肛門や、創傷（傷・床ずれ等）、失禁（尿漏れや、便漏れ）に関するケアを専門的に提供する看護師です。

尿や便に関する人工肛門を造設されている患者様の装具が問題ないか、皮膚の状態は大丈夫か、合併症はないか等を観察させてアドバイスさせていただくと共に、生活の中で困っていること等の御相談にも応じています。

創傷（きず）に関しては、床ずれ予防のためのケア方法やオムツかぶれの予防はどうしたらいいの？寝具やベットマットは…？健康な肌のお手入れ等の相談に応じ、自宅のできるケア方法をアドバイスさせていただいています。

失禁ケアでは、骨盤底筋訓練やオムツやパットについてのアドバイスなどを行っています。

その人らしい楽しい毎を送っていただくためのお手伝いをさせていただいておりますので遠慮なくご相談ください。（外科・泌尿器科が窓口になっています。）

感染管理認定 看護師って何者？

感染管理認定看護師 西 朝江



はじめまして。今年4月から感染管理を担当しています西です。2005年に北海道医療大学認定看護師研修センターで6ヶ月間のきびしい（泣きました、心が折れました、仲間に支えられました）研修を終え、2006年にハレテ合格しました。

さて、感染管理認定看護師とは何？と思われる方も多いと思います。主に医療機関において、患者さん、ご家族、訪問者、地域の皆様、そして職員を感染から守るために、日々感染症発生の監視、感染対策の実施状況のチェック、職員への教育、環境を整えるための物品や制度の整備などを行っています。

本来あってはならないことですが、私たち職員は病院の中にいると、ときに基本的な対策を忘れてしまうことがあります。そんな時はどうぞ、「先生、看護師さん、手を洗った？」と遠慮なく仰って下さい。そういうことがゼロになり「ここの職員はしっかりやっているね」と言ってもらえる日を目指して頑張ります。

緩和ケア認定看護師

緩和ケア認定看護師 平 田 妃奈子



がんは、高齢化、食生活の変化にともない、今となつては2人に1人の割合でなると言われています。がんの治療には手術や抗がん剤治療、放射線治療などがありますが、病状によっては痛みや吐き気などの様々な症状が出現することがあります。

このがんの辛い症状を軽減するための治療が緩和医療です。緩和＝ホスピス＝死というイメージから、緩和医療は末期がんの方が受ける治療と思われる方もいらっしゃると思いますが、現代においては、がんと診断されたその日から緩和治療として辛い症状の軽減を図ることが主流となっています。

辛い症状とは、痛みなどの身体的苦痛の他、がんと診断されて動揺し落ち込むことでの精神的苦痛や、治療による経済的な問題や家庭の問題といった様々な問題による辛さもあります。この辛さに早めに対処することで、日常生活を安心して送っていただけるようお手伝いさせて頂くのが緩和ケアの目的です。

現在の活動としては、普段わたくしは4階東病棟に勤務しており、毎週火曜日の午前中は緩和医療チームの一員として麻酔科医師、薬剤師と共に入院患者さんの元に伺い、主に身体的苦痛が少しでも軽減する様に努めています。症状緩和によって、その方が希望される生き方ができるように主治医や医療連携室とも相談、調整しながらお手伝いさせて頂いております。

第19回YOSAKOIソーラン大賞受賞!!

外科看護科長 石 井 美穂子

夢想連えさしの石井美穂子です。YOSAKOIソーラン大賞とっちゃいました～!! やった～! ばんざ～い! うれし～い!! 感謝! 感激! 感動!

第19回YOSAKOIソーラン祭りが2010年6月9日から6月13日まで開催されました。夢想連えさし(ゆめそうらんえさし)というチームで自身は12回目、夢想連えさしとしては14回目のYOSAKOIソーラン祭り参加となりました。

宗谷管内枝幸町の夢想連えさしの札幌隊として、よさこいに魅せられて踊り続けて12年。下は中学生から上は40歳代? 50歳代? まで幅広い年齢の100名近いメンバーで今年も、てっぺんを目指して半年ほど前から練習をしてきました。毎年、目指すは大賞! と狙っていましたが、本当にとれるとは…夢のようで、実は今でも信じられません。

昨年はファイナルに残ることができず、悔しい思いをしましたので、今年はファイナルに残りファイナルステージで演舞したいと願っていました。今年は304チームの参加があり、10ブロックに分かれた審査パレードで、昨年のファイナル出場チームの「北の大地」さんをライバルに12日土曜日の審査に臨みました。

踊っている私たちにお客さんの「がんばれー」という声援や白扇子を開いたときの「わー! すごーい!!」という歓声がとても気持ちよく、うれしく、力になりました。

ヨサコイの楽しさは、100名の仲間と心一つに作品を作り上げ、たくさんのお客さんから、拍手や声援をいっぱい受けて、演舞している自分自身が主役になれることです。各会場でのお客さんの反応から、もしかしていけるかも…という手ごたえは感じていましたが、日曜日のお昼過ぎにファイナル出場決定の知らせを受けるまで、不安がいっぱいでした。

ファイナル進出が決まったときは、本当にうれしくて、またあのきらきらしたファイナルステージで踊れるとみなで喜び合いました。ファイナルステージでは、出場11チーム中10番目の演舞でしたので、ファイナルに残った他のチームのすばらしい演舞を舞台裏から見て、テンションもピークで、踊り子みんなが躍動し感動して踊りました。

全てのチームが踊り終え、結果発表…緊張する中、「第19回YOSAKOIソーラン大賞は…」とアナウンスがあり、「えっ? 今年は大賞から発表するの?」と思っている矢先に「夢想連えさしです」と発表されて、あまりの驚きにしばらく信じられない気分でした。「今なんて言ったの?」「ほんとに私たち大賞?」などとメンバー同士で確認しあい、感動! その後はもう興奮と喜びで…なんともいえない気持ちでした。うれしいのに涙が止まらない…翌日仕事ができるか心配なほど泣きました(笑)

大賞受賞後の演舞は、自分自身のからだは飛んでいってしまうほど興奮して踊っていました。

「夢、想い、今動き出そう!」と今までやってきましたが、「夢は叶う!」ものだなと実感しています。そして、12年間懲りずにヨサコイを続けてきた自分自身にエールを送り、それを応援してくれた家族や仲間、理解して協力してくださった職場の皆様にも心より感謝いたします!

みんな～ありがとう!! 「夢想連! いざ～!!」



こんにちは、医療連携室です No.14

医療法人エイエムシィ あおば内科クリニック

今回は、あおば内科クリニックの院長八戸洋先生にお話を伺いました。あおば内科クリニックは、青葉中学校、上野幌小学校と並んで、青葉平岡通りに面している白いタイルのお洒落なクリニックです。待合室の大きな窓からは暖かい光が差し込み、スタッフの皆さんの明るい笑顔が印象的です。診療科目は内科、呼吸器科、循環器科、消化器科とプライマリー・ケア医として初期診療に従事され、患者様の診療には、八戸先生と看護師2名、事務員3名で対応してられます。

●病院の特徴について教えてください

無床の診療所として昭和59年に開設しました。身体の異常を自覚したら、とりあえずご相談ください。何でも診るプライマリー・ケアをやっています。そこから適切な専門医にご紹介します。単純X線、心電図、エコーや胃カメラは当院で施行しています。細径内視鏡が導入されましたので、鼻からも口からもスムーズに入ります。

●医療連携に対するお考えをお聞かせください

CTやMRI等は札幌社会保険総合病院にお願いしています。医療連携室を通して検査も結果報告も速やかに実施され、患者さんにも喜ばれ大変感謝しています。検査のみならず、各科の入院治療も、地域の基幹病院としてお引き受けくださり、まことに頼もしく思います。また、新さっぽろ消化器懇話会や新さっぽろ呼吸器勉強会などの病診連携の中心になって頂き真にありがとうございます。これからも益々のご発展をお祈りいたします。

八戸洋先生、ご協力頂きありがとうございました。今後もより充実した医療連携に努めて参りたいと思います。何卒よろしくお願いします。



院長 八戸洋先生とスタッフの皆様



〒004-0022 札幌市厚別区厚別南7丁目2-11
電話：011-891-1112 FAX：011-896-1291

編集後記

ビールが美味しい季節になり、巷ではお中元商戦となっておりますが、皆様はお世話になった方への感謝の気持ちはどのように表しておりますか？今年もお中元人気第一位はビールのようです！！

海などでバーベキューや焼き鳥のお供に、美味しいビールを飲み、暑い夏を乗り切りましょう☆(奥田記)

編集委員 相川・小林・有賀・嶋宮・中野渡・新谷・奥田・細谷・渡久山・北村